

タカラコラボラボ 第9回・第1期第9回TaCoLAB(宝塚市協働のまちづくり推進会議)議事録	
開催日時	令和6年(2024年)10月30日(火) 10:00~11:30
開催場所	中央公民館 203・204学習室
次 第	1 開会 2 議事 (1) 市民への協働に関する意識啓発のイベント実施について (2) 協働の事例集の更新について 3 その他 4 閉会
出席委員	田中会長、加藤委員、遠座委員、永崎委員、松村委員、龍見委員、大関委員、上田委員、岡田委員、橋之爪委員
開催形態	公開(傍聴人0名)

1 開会

事務局から、本日の出席者は10名であり、宝塚市協働のまちづくり推進会議規則(以下「規則」という)第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者は0名であることを報告した。

2 議事

(1) 市民への協働に関する意識啓発のイベント実施について(作業班の報告)

表記について委員より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

ア (会長) 作業班に参加されていない方からも何か質問があればお願いしたい。

イ (報告者) 前回の TaCoLAB からイベントの内容を方向転換したことについて初めて報告したため、そのことも含めて質問があればお願いしたい。

ウ (会長) 川西市のつながりカフェをイメージしているとあるが、行ったことある方はいらっしゃるか。どのような雰囲気だったか知りたい。

エ 何度か行ったことはあるが、テーマを一切決めずに勝手気ままに一人ずつ喋るような感じだった。前の人の話に乗りかかる人もいれば、全然違う話をする人もいて自由に喋っていた。すごいと思うところは、最後に座長の久先生が、参加された方々の話をピックアップし、話をまとめて終了する。今回のイベントの案は、テーマを決めて実施するというのはいいのではないかと思う。緩いテーマで話をして、最後に参加した感想を言って、そこから繋がりが広がることもあると思う。

オ 私は1回しか参加していないが、すごく印象に残っているのは障害施設で障害者の方と一緒に農作物を作るという話を聞いた。障害者の方にとっては働く良い機会になる。活動は川西市でされていて、畑も多くあってそういった活動も良いと思った。

カ (事務局) 一人一人発言する機会が回ってきて、何か出来事をピックアップして話

しているようなイメージ。気軽に集まれるというところを重視されていて、何か結論を出すということなく、久先生が上手に話を回されていたという印象。私が参加したときはかなり現役世代の方が参加されていた。

キ （会長）イメージとしては川西市のつながりカフェのイメージで、月1回無理をしない程度で、持ち帰りも宿題等もないということ。活動されている方が色々と悩みを持ち出し、喋りたいという話もあるので、そういう意味では何か持ち帰って作業するというのはまた少し違うし、つながっていくイメージで一番いいのではないかなと思う。タイトルについて、つながりカフェというタイトルを使ってもいいのかなについてはどうか。

ク （事務局）作業班の中で、川西市のつながりカフェのような場所が宝塚市にもあったらいいな、同じ名前を付けるとわかりやすいのではないかなというご意見があった。ただ、実際にこの名前を使うにあたっては、先方に確認をする必要はあると思う。また、この方向性でいくと決定したら、一度川西市のつながりカフェに委員の皆様と現地視察に行きたいと考えている。事務局の方から話を聞き、実際に参加して雰囲気を知る機会も必要だと思っている。そのタイミングで「つながりカフェ」の名前を使っていいか確認したいと思っている。

ケ （会長）この方向性で問題なければ、参加できる方々で視察に行くこととする。

コ この川西市のつながりカフェは久先生がまとめをされて終わっているような様子だが、宝塚市で実施した場合も会長かどなたかが最後に簡単なまとめをされるのか。

サ （会長）私自身もこういった集まりに参加しているが、必ずしも大学の先生が最後締めるという形ではなく、地域の方が締める場合もある。そのため方向性は探りながらも良いかなと思う。久先生は分野を問わず様々なことをご存じで、話のまとめ方は非常に素晴らしいと思う。しかし、ファシリテーションの方法は皆さんで考えていきたいと思う。久先生のような方がいることも重要だが、あまり専門性を追求するのではなく本当に緩やかな雰囲気、チームとして運営し、話をまとめるという方法もあると思う。

シ （事務局）作業班で、10～20人程度が入れる開催場所の候補として例をあげている。一例としてあげた「ここおる」の雰囲気を掴んでいただくために委員の方に写真を提供していただいたため共有する。活用させていただく場合は1階で開催するイメージか。

ス 1階・2階どちらでも大丈夫だと思うが、人数も含め1階の方がわいわいできる。外からも見えるため中の様子を外から見てもらえる。机や椅子は自由に動かすことができ、奥に子どもが遊べるスペースもあるため子ども連れでも大丈夫。

セ （会長）夜の開催の際は子どもを連れていけるのは有難いと思う。

ソ カフェや飲食店ではないため、飲食物の持ち込み等は可能。目の前に駐車場があり、かなり広いスペースで便利。清荒神社と売布神社駅から徒歩で15分、バス停からは徒歩5分ぐらい。

- タ (会長) 行きたくなる場所がいいと思う。第1回はここおるでの開催になるか。
- チ (事務局) 作業班で出た意見であるため、正式に決定したということではない。市内のいろいろな場所で開催したいという意見もあった。開催場所や時間帯は柔軟に検討して、試行錯誤を繰り返していくことが重要であると思う。一旦はここおるで調整していければと思う。
- ツ (会長) 何かを決めるということではなく、社会実験も兼ねて参加者の方には場づくりを経験していただきたいと思う。自分で何かしてみたいと思う方に対して冊子のようなものを紹介できると素敵かと思う。
- テ 1月実施するのであれば今後は作業班で細かいことを決めていくのか。
- ト (事務局) 方向性について承認いただけたら作業班で細かい流れを詰めていき、12月のTaCoLABで作業班の報告をしたいと思う。1月～3月で月1回の開催は目標であるが、年度内に1回しかできなかったという結果になってもよいと思っている。正式な開催場所の決定や周知方法等は次回の作業班で決めたいと思う。早々に日程調整の連絡をさせていただく。

(2) 協働の事例集の更新について

ア 提供事例についての意見交換

表記について、事例の提供いただいた委員から事例の説明と意見交換を行った。

- (ア) (会長) 全体で事例集にはどれくらい掲載予定か。
- (イ) (事務局) 前回のTaCoLABでは10事例の掲載を予定していると報告させていただいた。掲載する事例の数が増えると作成にも時間がかかると思い、いったんは10事例で作成する想定だが、今後も随時更新できればよいと思っている。時代によってトレンドな事例もあると思うため、時代の変化に応じた事例を発信していきたい。
- (ウ) 提供事例の一覧のタイトルで、団体名が記載されているものもあるが、タイトルは見た人が興味を持つようなタイトルにすることが重要だと思っている。少し目を引くようなタイトル付けが必要だと思った。

イ 事例集に掲載する事例の決め方

表記について、事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

- (ア) (会長) 事例の決め方について意見はないか。
- (イ) (委員) (意見なし)
- (ウ) (会長) 意見は特になしとする。インタビュー項目は実際にインタビューに行く団体が決まってから具体的に話し合うということでよいか。
- (エ) (事務局) インタビューで聞き取りしたい内容は事例提供シートの項目を基本としている。そこから追加した項目として「PRしたいこと」、「事例集に掲載可能な問い合わせ先」を追加している。インタビュー項目を決定するのは次回以降でいいと思う。

- (オ) 先ほども話があったが、タイトルについてはインタビューで団体から聞き取るのが一番いいと思うが、そのタイトルがとっつきにくいと思った場合、委員で考えるのか。
- (カ) (事務局) インタビュー先の団体と打ち合わせをしながら、どういうタイトルがキャッチーか、サブタイトルのように記載するのかといった構成も TaCoLAB で話し合いながら決めていく。
- (キ) このインタビューシートは項目がたくさんあるため、これを事例集に反映させるとなるとかなり難しいと思った。
- (ク) (事務局) インタビューシートの項目全てを一覧で記載するということは想定してない。どのような構成になるかはこれから決めていくが、前回の事例集を参考にすると見開き 2 ページにインタビューした内容をストーリーとして組み立てて文章をまとめてくださっている。その材料として、多くの情報から大事なポイントをまとめていく方が記事として作成しやすいと思う。インタビューの項目は案として細かく設定している。

3 その他

- (1) 委員より、「地域活動 編集会議」の周知があった。兵庫県阪神北県民局県民躍動室（主催）と NPO 法人コミュニティリンク（企画・運営）が全 4 回（11/10（日）宝塚市立中央公民館ホール、12/15（日）川西市まちなか交流拠点マチノワ、1/18（土）OFFICE CAMPUS、2/8（土）伊丹商工プラザ）を開催。

4 閉会

以 上